

海外流通情報

コロナ後の香港における新しい日常と消費行動

香港駐在 所長 水之浦 希子氏

「24時間眠らない街」、「百万ドルの夜景」、香港を形容する言葉は数多くあるが、多くの人が煌びやかでエネルギッシュな夜のイメージを抱くのではないだろうか。しかしコロナ禍を境に、この不夜城の経済にも翳りが見え始めている。

まず、香港人の飲食習慣に変化が見られる。コロナ前は、香港人の夕食は19時半や20時の遅い時間から始まることが多く、1日の食事の中でも夕飯をしっかり摂る文化が根付いている。そのため、深夜まで営業する飲食店が多くあった。しかし、政府の規制を機に夕食時間は18時に早まり、22時頃には閉店する店舗が増えた。この新しい生活習慣はコロナ後も続き、夜遅くの街は以前よりも閑散としている。

2023年下半年以降、香港人の消費行動にも大きな変化が見られた。その背景には、香港経済の景気低迷や、消費の一部が域外に流出していることが大いに影響している。

昨年夏以降、香港市民が深センなど隣接する中国本土へ出かけ、買い物や食事を楽しむ「北上消費」が定着し、今もその傾向が強まっている。中国文化観光省アジア観光交流センターが9月末に発表した「2024年香港・マカオ市民の本土旅行の特徴に関する調査報告」によると、1,594名の回答者のうち、82.7%の香港人が「2024年内に本土に行く予定が1～10回ある」と答えている。同センターは、コロナ禍で蓄積された旅行需要の解放に加え、本土の文化や観光の魅力の向上、香港ドル高などが要因と分析している。香港で同様の消費をするよりも、中国本土に足を伸ばして食事やショッピングなどを楽しむ方が、コストパフォーマンスが良いと感じる市民が増えているのが実態だ。

一方で、暗いニュースばかりが続く香港にも朗報があった。9月20日、東京電力福島第1原発の処理水海洋放出をめぐり、日中両政府は中国による日本水産物の禁輸措置を段階的に緩和することで合意した。昨年8月、香港政府は処理水の放出を受け、10都県からの水産物の輸入停止を発表したが、これは事実上、マカオとともに中国政府の措置に追随したものであった。

中国政府の発表を受け、香港政府環境・生態局は「科学的根拠に基づき、予防措置の段階的な緩和を検討する」とコメントしており、今後の早急な見直しが期待される。

香港は人口が少ないものの、香港市民の日本産品への高い関心や、他国に比した際の関税規制等の少なさもあり、日本の農林水産物・食品の輸出先として国・地域別では2020年まで16年連続で1位、2021年以降は2位となっており、本県にとっても大変重要な市場である。一刻も早い処理水によるネガティブな影響の収束を祈るばかりだが、当所としても、香港政府の動向やその影響を注視しながら、本県産品を引き続きPRしていきたい。

鹿児島ブランドショップ鹿児島店が移転オープンしました!!

鹿児島県特産品協会及び鹿児島ブランドショップ鹿児島店は、鹿児島県産業会館からよかど鹿児島本店ビル2階に移転し、ブランドショップは8月1日(木)から営業をスタートいたしました。

8月3日(土)には、オープニングイベントとして、大島紬・浴衣のファッションショーや島唄ライブ、焼酎の飲み比べや特産品が当たる抽選会のほか、移転オープンを記念した紅白軽羹の配布などを行い、多くのお客様にご来店いただきました。

また、オープニングイベントに先立ち、鹿児島県と(株)鹿児島銀行による県産品の販路拡大、県内企業の持続的な発展等に関する地域連携協定の調印式が執り行われました。

今後、この連携協定に基づき、地域経済の活性化に資する具体的な取組みが進められることとなりますが、当協会としましても、鹿児島県や(株)鹿児島銀行、関係団体等と連携を図りながら、よかど鹿児島の施設を活用した特産品販売会やギャラリー等でのイベント開催など特産品振興に向けた具体的な取組みを進めてまいります。



オープンを記念したテープカット

㈱山形屋「第15回 南の宝箱 鹿児島 ふるさと物産展」開催

県内における人・モノ・情報の交流促進並びに県産品振興を図り、本県特産品や観光情報等を総合的に紹介するため、㈱山形屋にて「第15回 南の宝箱 鹿児島 ふるさと物産展」を開催し、16市6町から合計58社(工芸品9社、食品49社(初出展14社))が出展しました。

今回は、鹿児島県のPRキャッチコピーである「南の宝箱 鹿児島」をテーマに多彩で特色ある県内各地の特産品と観光情報などを幅広く宣伝・紹介することにより、「ふるさと鹿児島」の魅力の再発見・再発掘を図りました。

特に、15回開催記念企画として山形屋で長年人気の「金生まんじゅう」の来場者プレゼントや鹿児島の魅力ある特産品が当たるご当地ガチャの実施(先着50名様)、数量限定品のスイーツや薩摩切子などの目玉商品も楽しんでいただきました。

ふるさと物産展では、県民の方々でも普段なかなか行けないお店や購入できない商品、観光情報等が一堂に揃っていたため、「見る」「触れる」「味わう」ことで鹿児島再発見や新発見になり、現地を訪れる良いきっかけとなるとの声が多数寄せられました。また、お盆時期と重なったことから多くの帰省客や観光客もご来場され、鹿児島にいながら県外在住者に商品PRや会期後の購入などにつながる機会となりました。

【消費者の声】

- ・試食や試飲をすると出展者と会話でき、知らなかった食べ方や詳しい知識を教えてもらえて良かった。次はお店にも行ってみたい。

【山形屋担当者の声】

- ・特産品事業者は、いろいろと工夫して自慢の食材を活かしながら、地域の魅力も一緒にPRしている。地元で地元をPRする場となっており、引き続き、ふるさとのデパートとして連携していきたい。

【出展者の声】

- ・お客様と会話できたことにより、これまで自分たちの商品がどう評価されているのかよくわからなかったが、良い点・改善点が知れた。また、初出展で不安や心配もあったが、出展者同士でサポートしてもらい、今後につながる情報交換もでき、お互いの素材や技術を活かした商品づくりを開発することとなった。



出展者を激励する
塩田知事と津田事務局長

東武宇都宮百貨店「長崎・鹿児島展」・東武百貨店池袋店「大九州展」開催

東武宇都宮百貨店の開業から65周年という節目の年にあたり、昨年好評いただいた「長崎・鹿児島展」(8月22日(木)～8月27日(火))を開催しました。

鹿児島の食をその場で楽しめるイートインには、長崎県とコラボした「黒豚飛魚ラーメン」や鹿児島の食を代表するさつま揚げや黒豚弁当、海鮮加工品の他、焼酎(芋焼酎・黒糖焼酎・麦焼酎)を取り揃えて、本県の食の魅力を発信しました。工芸品については、特に本場大島紬や屋久杉製品などを興味深くご覧になる方が多く、北関東の新たな市場としての魅力を感じました。

お客様からは、「鹿児島には行ったことがないが、今回の物産展に来てみて、本場で色々な食巡りをしてみたくなった」「鹿児島の新たな魅力(鹿児島の食だけでなく工芸品も)が発見出来た」等の声もありました。

また、東武百貨店池袋店では、「暑い夏を乗りきる」をテーマに、九州各県の食と工芸品や九州の文化等をPRする「大九州展」(8月1日(木)～8月6日(火))を開催しました。

今回本県からは、スタミナアイテムとして黒毛和牛・黒豚を使用したハンバーガー食べ比べセットや旬のフルーツを使用した涼を感じるスイーツ・ジェラート等を中心に展開しました。

百貨店担当者からは「九州各県には、それぞれの味・魅力があり、九州展は一体感を感じる。また、魅力的な商材も多いことが、来場者数の多い理由ではないかと思う」、来場者からも「九州に旅行に行った時の忘れられない味が会場で手に入ることが有難い」等の声があるなど、九州の魅力を大々的に宣伝・PRすることができました。

当協会では、今後も首都圏で会員皆様と一緒に本県特産品を盛り上げていきたいと思います。



小学生が伝統職人のお仕事を体験！

本県の伝統的工芸品を製造体験や職人との交流を通じて理解と認識を深めてもらうため、小学生とその保護者を対象に「かごしまの手仕事学校」(8月9日～11日)をマルヤガーデンズにて開催しました。今回は、HPやSNSでの周知に加え、近隣の小学校などへの幅広い呼びかけを行ったことで、3日間で県内外から延べ179名が体験しました。(アンケート回答のうち約4割が学校配布チラシ)

中には1日に複数の体験や毎年異なった工芸品の製造体験をするなど、毎年恒例の夏休みイベントとして楽しみにしている小学生が多いことを実感でき「来年は、また違った体験をしたい」という嬉しい声もありました。

また、夏休みの自由研究の一環で手織体験をし、職人に歴史や製造方法、織機の仕組み等、事前に質問を準備していた小学生がいるなど、親子ともに県内の工芸品を知っていただく良い機会となりました。

今回は、薩摩焼のアクセサリ製作や大漁旗の技法を使ったトートバッグ色付を初企画し、興味を示す小学生も多かったことから、今後もこのような工芸品に接する機会を増やし、製造体験を通して若い世代に興味を抱いてもらえるような取組みを進めて参ります。



【体験した小学生の声】

- ・難しかったが、思い通りの作品ができてよかった。
- ・良い経験になったので、次も他の工芸品も体験したい。
- ・鹿児島の産業についてもっと興味が湧いた。

【保護者の声】

- ・毎年このイベントをしているのは、知らなかった。非常に良いイベントだと思う。
- ・子供が自由な発想で体験(絵付・製作)し、集中していたことに成長を感じられた。
- ・普段出来ない体験や職人の話が聞け、また、色んな職種があり、来年も体験させたいと思った。

【出展者の声】

- ・今年もたくさんの小学生に体験してもらい嬉しかった。
- ・次回は違う体験も検討しているため、様々な技法、手仕事を知ってもらいたい。

特産振興支援員奮闘記

「鹿児島抹茶」で特産品開発！

～日本一の有機栽培の茶園面積とてん茶の生産量を誇る鹿児島茶～
特産振興支援員 食品担当 海老原 涼子



ご存じでしたか。「鹿児島抹茶」

鹿児島県の有機栽培茶の面積は、799ha(令和5年)で全国トップクラスです。抹茶の原料となる「てん茶」は、この10年間で生産量は3倍に拡大し、ついに生産量は2020年に京都を抜いて、2023年産も全国一位(1585ト)となり、全国シェア38%を占めます。

消費がなかなか厳しい煎茶に比べ、和食ブームや健康志向を背景とした海外の抹茶人気を追い風に需要が高くなっています。「せいめい」など専用品種だけでなく、県内で多く栽培されている「やぶきた」など煎茶用の品種からも生産できることもあり、鹿児島では茶園の転換や加工場を増設する動きも広がっています。

コンビニのスイーツなどで多く使われているお茶は、蒸した後に揉まずに乾燥させ、茎や葉脈を除いた茶葉(てん茶)を臼などでひいた「抹茶」です。てん茶は、うま味や香りを引き出し、色を濃くするために新芽に覆いをかけて一定期間遮光します。

煎茶などの販売が伸びない中で、抹茶はさまざまな料理やフィナンシェなどの焼き菓子、抹茶プリンなどの冷たいスイーツ、ラテなどのドリンクにも使用しやすく、多種多様な業界で利用されています。

生産量日本一の鹿児島が利用しない手はありません。鹿児島の生産物を加工原料として地元で確保・活用できることは、鹿児島の食品事業者の大きな強みと考えます。

1. 第29回かごしま原木しいたけフェア開催告知

本県特産品である原木しいたけの消費者への普及や啓発、消費向上を促すため、「第29回かごしま原木しいたけフェア」を開催いたします。

当日は、乾・生しいたけや椎茸加工品、特売用乾燥しいたけの販売のほか、2,000円以上の購入者を対象にしたお楽しみ抽選会を実施いたします。また、よかど鹿児島との連携により、館内飲食店で特別メニューを販売します。

毎年、非常に良質な椎茸をお買い求めいただけることから大人気のフェアですので、当協会としても、更なるPR、魅力発信を続けて参ります。

【会期】10月15日(火)～10月18日(金) 4日間

※15日～18日(10:30～12:00の時間帯のみ)は、詰め放題実施予定(先着50名)

【会場】鹿児島銀行よかど鹿児島別館ビル 屋外特設会場



2. 「南の宝箱鹿児島輸出商談会2024」及び「鹿児島県産品×沖縄国際物流ハブ」海外輸出商談会 開催告知

豊富で良質な本県産品を海外への販路開拓と更なる認知度向上を図るため、国内外のバイヤー約28社と商談する「南の宝箱鹿児島輸出商談会2024」(10月15日(火)～16日(水)2日間)及び沖縄国際物流ハブの物流機能を活用して特産品の販路拡大を目指す「鹿児島県産品×沖縄国際物流ハブ」海外輸出商談会(10月31日(木))を開催いたします。

当協会では、これからも県や民間企業と連携を図りながら、海外への本県特産品の販路拡大及びPRを支援して参りますので、輸出等興味のある方は、是非ご相談ください。

3. 「かごしまの暮らしを彩る器展・商談会」開催します！

薩摩焼や薩摩切子を中心に、多様なライフスタイルにあわせたテーブルコーディネートや、日々の暮らしに彩りを添える逸品の展示販売を行う「かごしまの暮らしを彩る器展」をマルヤガーデンズにて開催いたします。

特に今回は、和食・洋食・ランチをテーマにしたコーディネートを展示紹介するほか、初の試みとして、県内外のバイヤー等と出展企業の商談会も予定しておりますので、皆様是非お越しください。



【会期】10月18日(金)～10月21日(月) 4日間 ※商談会は10月21日(月)

【会場】マルヤガーデンズ 4階 ユナイトメントガーデン

4. 東武百貨店船橋店「第24回鹿児島物産展」開催告知

鹿児島の優れた特産品や観光地等を総合的に紹介し、県産品の販路拡大、及び観光客の誘致促進を図るため、千葉県船橋市において標記物産観光展を開催いたします。

千葉県の消費者に本県特産品の魅力を発信して参ります！

【会期】11月13日(水)～11月19日(火) 7日間

【会場】6階イベントプラザ

5. トヨタ生活協同組合 メグリア本店「鹿児島うまいもの市」初開催！

愛知県豊田市のトヨタ自動車を経営母体とするトヨタ生活協同組合メグリア本店において、本県独自の文化で育まれた特産品を豊田市一円の皆様に幅広く紹介するため、標記催事を初開催いたします。

トヨタ自動車の関連企業などの多くの従業員が居住し、名古屋市とは異なる商圈である豊田市においても継続した本県特産品の魅力をPRすることで、新たな鹿児島ファンを獲得して参ります。

【会期】11月20日(水)～11月26日(火) 7日間

【会場】1階催事場

6. テーブルウェア・フェスティバル ～暮らしを彩る器展～

「テーブルウェア・フェスティバル ～暮らしを彩る器展～」において、薩摩焼・薩摩切子製造企業がPR・販売を行い、首都圏にて本県の伝統的工芸品の魅力を幅広く紹介します。

今回のイベントテーマは、会場の空間も含めた「クリスマス」「New Year」をテーマにした雰囲気あふれるシーズンブルな会場となりますので、是非、皆様ご来場ください。

【会期】11月28日(木)～12月4日(水) 7日間

【会場】東京ドームシティ プリズムホール

7. 水戸京成百貨店「鹿児島フェア」開催告知

本県独自の文化や伝統の中で育まれた数々の特産品を宣伝・販売し、水戸市を始めとする茨城県の皆様に幅広く紹介し、県産品振興ならびに本県への観光客誘致を図るため、標記フェアを開催いたします。

水戸京成百貨店では、鹿児島物産展や九州展など40年にわたって本県特産品をPRしている歴史もあることから、本県の根強いファンも多い水戸市で、継続した本県特産品の販路拡大を図って参ります。

【会期】12月5日(木)～12月10日(火) 6日間

【会場】7階催事場東側フロア